

## I 教育目標

「質実剛健」の気風を継承し、校訓「正しく、強く、明るく」を基に、「文武両道」を目指し、地域社会や国際社会に貢献できる、調和のとれた創造的な人間を育成する。

## II 重点目標

生徒一人ひとりの自立（自分の力を発揮して人の役に立つ人間になること）に向かって、未来起点の思考と日常の凡事の徹底により、高校生活（学習、部活動、学校行事等）を通して、3つの資質・能力（自己有用感、視野の広さ、主体性）を、生徒一人ひとりが自ら育むように、教職員、保護者、同窓会、地域等が連携し、皆で支援する。

## III 具体的目標と全体の取組

### 1 基本的な生活習慣の確立と人権文化の推進

- (1) 清々しい挨拶、品位ある身だしなみ 及び 正しい言葉遣いの習慣化
- (2) 心身の健康管理、清掃の励行 及び 規則正しい生活習慣の確立
- (3) 自他を尊重する心や態度、規範意識 及び 人権意識の向上
- (4) 学級・学年・部活動等におけるいじめを生まない集団作り

### 2 特別活動、部活動等への主体的な取組及びリーダーの育成

- (1) 学校行事、HR活動 及び 生徒会活動における主体的な運営
- (2) 探究活動を軸とした社会貢献及び地域の方々との共働体験の推奨
- (3) 部活動を通じた人間性、自主性・社会性 及び 個性・能力の伸長
- (4) 国際交流の手段の工夫を通じた、国際社会で活躍できるリーダーの育成

### 3 開かれた学校づくり、安心・安全な学校づくりの推進

- (1) 土曜授業公開（学校説明会）の工夫、ホームページ、学校案内等による積極的な情報発信
- (2) 防災教育、交通安全教育の推進 及び 危機管理体制の充実
- (3) 学校評議員・SSH運営指導委員等による学校評価の有効活用による、実効性のあるPDCAサイクルの確立
- (4) P T A、同窓会等関係諸団体との連携による教育活動の推進

### 4 確かな学力の育成、学力保障の推進

- (1) 教育課程、学習評価法等の継続的検証による教育活動のさらなる充実
- (2) 大学入試問題の研究に基づくシラバスの活用、各教科担当教員の連携・協力による組織的な学習指導の徹底
- (3) 学習実態の把握、生徒面談、部活動ガイドラインの遵守等、家庭学習時間の確保のための学年・担任及び部活動顧問の連携による支援
- (4) 授業改善の推進による魅力ある授業の実践及び授業公開・授業研究・授業アンケートによる点検
- (5) 読書の習慣化 及び 情報・学習センターとしての図書館の積極的な利用

### 5 これからの時代を生き抜く人材の育成

- (1) SSH活動（探究活動）を核とした解決困難な課題に立ち向かうことのできる人材の育成
- (2) 一人一台端末を用いた効果的な指導 及び 学習の個別最適化に向けての検討
- (3) 読解力・思考力・判断力・表現力の養成、英語4技能の育成及び学習履歴の蓄積等による新しい大学入試への対応
- (4) 国際交流の手段の工夫を通じた、国際社会で活躍できるリーダーの育成【再掲】

### 6 キャリア教育、進路指導

- (1) 入学時初期指導の充実・徹底 及び 3年間を見通したキャリア教育の実施
- (2) 課外学習、勉強合宿、模擬試験等の円滑な運営 及び 進路指導体制の確立
- (3) 生徒、保護者への進路情報の提供 及び 進路面接の充実
- (4) 探究活動を通じた将来的に地域に貢献する人材の育成 及び 主権者教育・消費者教育の充実

### 7 科学探究科の指導の充実

- (1) 「探究プログラム」のさらなる充実 及び 理数科研究発表会、科学技術コンテスト等への積極的な参加
- (2) 2期10年にわたるSSH指定成果の普及、静岡市との連携強化による市への貢献 及び 開発した独自評価法の検証
- (3) 研修を通じた担当の指導力向上並びに少人数・習熟度別指導（理・数・英）の工夫による指導体制の強化

### 8 職員集団の組織性・協働性の向上と各職員の「主体性・視野の広さ・自己有用感」の醸成

- (1) 学年主任、教科主任、分掌主任、教科リーダー等のリーダーシップ、各所属職員によるフォロワーシップ、アサーティブな職員関係による「チーム市高」としての組織的・協働的な教育活動の推進
- (2) 職員研修のさらなる充実による、職員の視野の広さの醸成及び学校改善の円滑な遂行
- (3) 職員のワークライフバランスの向上
- (4) 分掌、教科、学年等による、職員の学校改善への主体的取組の向上